郷土の会だより
発行責任者
岡村昭則

ウォーキングサークル

山上げ祭り下見会（7月２４日）

天谷範夫

来年のサークルの欄外予定の山上げ祭の下見会を、７月２４日に行いました。大宮駅に集まったのは、私と、相場さん、有村さんの３人。東北線で宇都宮迄往き、宝積寺で乗り換えて、終点烏山へ。駅に着いたのは１１時過ぎで、駅前では、歓迎の祭り囃子や、パンフレット配布などが行われていました。まずは、山上げ会館で、祭の様子や、烏山の季節の移り変わりを大きなスクリーンでみて、予備知識を習得？外の公園で昼食タイム。すぐ先で祭協賛のカラオケ大会の歌が聞こえてきます。休憩後、最初に見る会場へ向かうが、残念なり。すでに解体準備の最中で、少し遅かったようです。次は駅前で行うので、山車の巡行を見ながら一足先に駅へ向かう。駅前近くの休憩所でしばらく休んでいると。お稚児さんを先頭に山車がやってきました。今度は見逃すまいと、組み立て準備やら舞台設営の様子を見て、地歌舞伎の開演からしばらくは時代絵巻を見ていましたが、暑い、暑い。結局、４時からの屋台パレードをあきらめて上り電車に乗りこみ帰る事としました。

山上げ祭り

（那須烏山市観光協会）

★山あげ祭りの由来

烏山八雲神社誌（宮司黒崎寿著）の由緒によると、永禄三年（1560年）牛頭天王を大桶から酒主村（烏山町の旧名）十文字に勧請したと書き出されています。永禄三年の頃は、歴史上戦国時代でしたので世の中の統制と治安が乱れ、野盗、追剥が烏山町の近辺にも出没しました。その様な不安の中で突然疫病が大流行した、もちろん医療機関はなく、重病患者は、死を待つしかないのです。そこで主だった人が集まり、その年の吉凶を占易したところ、大桶村から、疫病除け、厄除けの神様を分霊し奉祀すると良いとの卦によって現在の十文字に牛頭天王を勧請し、氏子達が「病気が治りますように」と祈願し、併せて余興を奉納する事になり、神前に舞台を造り、踊りを奉納いたしましたところ、拭が如く病気が治ったと伝えられました。氏子達は大変喜び且つ安堵の胸をなでおろし、以後毎年お祭りを行う事を定め、いつか現今の「山あげ祭り」に発展してきました。

★「山あげ」とは、一言で歌舞伎の野外劇と言うことが出来ます。

舞台の左には花道ができ、花道の後ろには御拝（向拝・屋台の飾部）が置かれ、荘重さを加えます。舞台の右は太夫座であり、舞台の後方には橋（松）、波、館、前山、中山、大山が遠近よろしく立てられます。（「山を立てること」を山をあげると言う。）これらの山には山水が描かれ、四季の情趣が豊かに現されます。こうして、巾は道路巾８メートル、奥行き１００メートル、高さ２０メートルに及ぶ巨大な野外演舞場ができあがります。ここで常磐津に合わせて、それぞれの歌舞伎舞踊が演じられます。

★ 演目

1．子宝三番叟

天明４年（１７８４年）初演　所要時間25分

１２人の子を持つ子福者（こぶくしゃ）が四季の遊びの面白さを語る物語で、歌・詩も美しく上品で、劇場の開場式などに演じられます。山あげ祭り、宵祭・笠揃（山あげ祭り初日夜）には、最初に必ず演じられます。

2．将門

天保７年（１８３６年）初演　所要時間45分

平将門滅亡の後、その娘、滝夜叉姫は、ガマの妖術を使って再興を図ろうとします。討伐に来た大宅太郎光國を色仕掛けで味方に引入れようとしますが見破られ立回りとなります。

この曲は、浄瑠璃も踊りも最高傑作とされる曲であり山仕掛けとも調和するので山あげ祭りには最も数多く演じられております。

3．戻り橋

明治２３年（１８９０年）初演　所要時間50分

渡辺綱が京の一条戻り橋で、扇折小百合という美女と道連れになり、女のくどき模様のうち、これを愛宕山の悪鬼の化身と見破って立回りとなり、その片腕を切り落とす物語です。

この曲も山仕掛けによく調和する名曲です。

4．関の扉

天明４年（１７８４年）初演　所要時間50分

関兵衛、実は天下をねらう大伴黒主が盃に映る星影を見て時節を悟り、呪の護摩木にしようと桜の木に切りつけると黒染姿の精が傾城姿で現れなまめかしく言いより互いに本性を現し立ち回りになります。古曲で常磐津の代表的な名作です。山あげまつり笠抜（最終日の夜）に上演されます。

5．老松

延享４年（１７４７年）初演　所要時間５分

最古曲の御祝儀物で、歌詞の出典は謡曲の「老松」と「史記」の中の「始皇本記録」から出典されております。最終日の夜「関扉」に続き最後に上演されます。このほか「忠信」「宗清」なども演じられます。

★烏山特産の和紙を用い「山」をつくり奉納。

●「山」を立てれば、不景気直しになる

●「山」の「はりか」を裏板に使えば落雷除けになる。

●古い「はりか」の灰を肥料に使えば豊作になる。

●屋台の造花を家に挿しておけば火伏せになる。

●屋台に使った反物を着れば子供が生れ、子供は健康に育つ。

●屋台のお礼は安産の神

と言われております

★上演に当たっては、踊りは「山あげ踊り部会」のみなさんにより、又、常磐津は「山あげ常磐津会」の皆さんにより上演されます。いづれも烏山在住の愛好者の皆さんで、山あげ保存会が育成し、1年を通じて練習に励んでおります。